山口大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要第6号（1995.3）

中学校家庭科教科書における教材の変遷について

― 環境教育の視点から ―

入江　和夫＊

A Study on Subject Matters Changes in Homemaking Textbooks for Junior High Shool Education

Kazuo IRIE

(Recieved November 21, 1994)
キーワード：家庭科教科書　題材　環境教育

はじめに

平成5年度から中学校の新しい教育課程が実施されている。今回の改訂ではそれまでの小幅な手直しでなく、教育にたいする抜本的な見直しがなされ、そのことは家庭科教育においても、具体的な領域の構成に表れている。そしてまた、科学技術の高度な発達や産業経済の急激な発展から引き起こされた生活環境の汚染や資源枯渇の問題も家庭科の各領域で扱われる方向にある。本稿ではこのような教育課程の基本的方針を具体的に確かめるため、中学校学習指導要領や家庭科教科書の題材の変遷を概観し、環境教育の視点から衣食住の内容の経時的な変化について分析し、今後の家庭科教育・教材研究のあり方について考えたい。

1、中学校学習指導要領の変遷

戦後、家庭科はいろいろ紆余曲折しながら現在のような小・中・高校で一貫して「家庭生活」の領域が履修でき、男女共学の形態となった。ここでは1947年以降の家庭科学習指導要領[1)]を通して「家庭生活」と男女共学の観点からその変遷を眺めることにする。

1947年（昭和22年）学習指導要領家庭編は小・中・高校が一緒に記述され,この中の「はじめのことば」のところで、「・・・この教育は家庭内の仕事や、家族関係に中心を置き、各人が家庭建設に責任をとることができるようにするのである。・・・家庭科の教科目の中に家族関係の研究は必要欠くべからざる課程とすべきで、第5、6学年に始まる家庭科の中にも、必須のものとすべきである。」と記述されている。家庭内の仕事や家族関係の学習内容は平成元年度の学習指導要領の中に新規に設けられた「家庭生活」領域に該当し、1947年の家庭科教育は「家庭生活」が重要な柱として考えられていた。続いて、「中学校においては、家庭科は職業科の一つとして選択科目になる。大部分の女生徒はこの科目を選ぶものと思われるが、中には男生徒もこれを選ぶかもしれない。」のように、

＊ 山口大学教育学部家政教育

この時の中学校家庭科は男生徒も学習できたのである。

1951年（昭和26年）の中学校学習指導要領は「職業・家庭科」という教科に変わった。目標は「1、実生活に役立つ仕事をすることの重要さを理解する。2、実生活に役立つ仕事についての基礎的な知識・技能を養う。3、協力的な明るい家庭生活・職業生活のあり方を理解する。4、家庭生活・職業生活についてついての社会的・経済的な知識・理解を養う。5、家庭生活・職業生活の充実・向上を図ろうとする態度を養う。6、勤労を重んじ、楽しく働く態度を養う。7、仕事を科学的・能率的に、かつ安全に進める能力を養う。8、職業の業態および性能についての理解を深め、個性や環境に応じて将来の進路を選択する能力を養う。」のように細かく記述されている。ここでは最初に生活に役立つ基礎的な仕事に関する知識・技能があげられ、次に協力的な明るい家庭生活・職業生活についての目標があげられている。この順序から判断すると前回に強調されていた家庭生活の重要性がやや後退した感がある。また、この中に「農村女子向き課程の例」があり、「これは第1学年から男子と女子を分けて計画しているが単に例の提出の便宜にもとづくもので、この方がよいというわけではない」と記述され、男女別学の可能性を方向づけたことからも、家庭生活の重要性が後退している。

1956年（昭和31年）の中学校「職業・家庭科」学習指導要領は目標は「1、基礎的な技術を習得させ、基本的な生活活動を経験させる。2、産業ならびに職業生活・家庭生活についての社会的・経済的な知識・理解を得させる。3、科学的、能率的に実践する態度、習慣およびくふう創造の能力を養う。4、勤労と責任を重んじる態度を養う。5、将来の進路を選択する能力を養う。」のように記述され、前回の「家庭生活・職業生活」の表現が「職業生活・家庭生活」と逆になり、職業技能の習得の優先的な色彩になった。また、「職業・家庭科の教育は将来いかなる進路をとる者にとっても必要な一般教養を与えるものであるから、共通に学習すべき面をもつものである。しかし、具体的な指導計画として性別や環境などにより特色を持つものである」のように性別による指導計画があることを記述され、家庭生活の重要性がさらに後退した。

1958年（昭和33年）の中学校学習指導要領は「技術・家庭科」と変わり、現在の名称になった。目標は「1、生活に必要な基礎的技術を習得させ、創造し生産する喜びを味わわせ、近代技術に関する理解を与え、生活に処する基本的な態度を養う。2、設計・製作などの学習経験を通して、表現・創造の能力を養い、ものごとを合理的に処理する態度を養う。3、製作・操作などの学習経験を通して、技術と生活との密接な関連を理解させ、生活の向上と技術の発展につとめる態度を養う。4、生活に必要な基礎的技術についての学習経験を通して、近代技術に対する自信を与え、協同と責任と安全を重んじる実践的な態度を養う。」のように記述され、「家庭生活」の表現が消失した。また、「生徒の現在および将来の生活が男女によって異なる点のあることを考慮して、「各学年の目標および内容」を男子を対象とするもの女子を対象とするものに分ける」と記述され、男女別学の履修形態が採用された。教科書は「女子向き」、「男子向き」に別れ、前者は「設計・製図」「家庭工作」「家庭機械」を取り入れた。民主的家庭生活の基盤である男女共学がなくなり、家庭生活の重要性はなくなってしまった。

1969年（昭和44年）中学校学習指導要領の「技術・家庭科」の目標は「1、計画、製作、整備などに関する基礎的な技術を習得させ、その科学的な根拠を理解させるとともに、技術を実際に活用する能力を養う。2、家庭や社会における技術と生活との密接な関

連を理解させ、生活を技術的な面からくふう改善し、明るく豊かにする能力と態度を養う。3、仕事を合理的、創造的に進める能力や協同、責任および安全を重んじる態度を養う。」のように技術優先の内容となり、ここでも家庭生活の表現はない。

1977年（昭和52年）の学習指導要領の目標は「生活に必要な技術を習得させ、それを通して家庭や社会における生活と技術の関係を理解させるとともに、工夫し創造する能力及び実践的な態度を育てる。」となり、教科書は従来のような「男子向き」「女子向き」が廃止され、同じ教科書で学習することとなった。男子は家庭系列から一領域を、女子は技術領域から一領域を履修し、一部の相互乗り入れになった。しかし、やはり男子は技術系列を、女子は家庭系列中心の内容を履修するものであった。家庭生活の重要性はあまり、感じられない。

1989年（平成元年）の学習指導要領の目標は「生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、家庭生活や社会生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる」の記述され、男女必修の領域として「木材加工」「電気」「家庭生活」「食物」の4領域が設けられた。目標の中にも「家庭生活」の語が示され、領域としても新設された。つまり、今回の改訂で、小・中・高校と一貫して「家庭生活」という領域と男女共学が復帰し、1947年（昭和22年）学習指導要領家庭編の趣旨に近づいたものとなった。

2、中学校技術家庭科教科書の題材の変遷

今まで述べてきたように平成5年度から新しい教育課程が実施されている。そして今回の改訂では教育に対する抜本的な見直しがなされ、家庭科教育においても具体的に教科書の中の教材や題材に表れている。ここでは入手できた1958年（昭和33年）の中学校学習指導要領に基づく昭和43年以降の教科書[2)3)4)5)6)7)8)9)10)11)]の題材、小題材を表1にまとめ、その変遷を見ることにする。

表1　中学校家庭科教科書の題材の変遷

技術・家庭女子用1 昭和43年版 （昭和33年告示）	技術・家庭女子向き1 昭和53年版 （昭和44年告示）	技術家庭上 平成3年版 （昭和52年告示）	技術家庭上 平成5年版 （平成元年告示）
調理	被服	被服1	家庭生活
わたしたちの食物	わたしたちの被服	作業着の製作	1わたしたちと家庭の生活
1青少年期の献立	ー日常着の製作ー		
1)青少年期の栄養		1人と被服	1)家族と家庭の生活について考えてみよう
2)食品の栄養的特質	1わたしたちの衣生活		
3)青少年期の食品群別摂取量のめやす	1)わたしたちの生活と被服	2布の成り立ち	2わたしたちの家族と家庭生活
4)献立の作成	2)わたしたちの日常着	1)布を観察しよう	1)わたしたちと家族のかかわりを考えよう
2調理用器具と熱源	2日常着の製作計画	2)布のいろいろ	2)家庭のはたらきと家族 の役割を
1)調理器具とあつかい方	1)活動的な日常着の種類	3からだと衣服の形	
		1)からだの形を観察しよう	

2)調理用熱源と
あつかい方

3調理実習
1)調理の目的
2)調理実習上の注意

食物と食生活
1)食習慣の反省
2)食事のしかた

家庭機械
家庭機械のとり
あつかい
1裁縫ミシン
1)ミシンの使い方
2)ミシンの調整
3)ミシンの手入れ

2家庭用電気器具
1)電気洗たく機の
使い方
2)電気アイロンの
使い方
家庭機械と生活

被服製作
日常着の製作
1わたしたちの
日常着
1)日常着の選び方
と着方
2)整った身なり

2ブラウスの製作
1)製作の計画
2)製作のしかた

3スカートの製作
1)製作の計画
2)製作のしかた

2)ブラウス・スカート
の形と組み合わせ
3)ブラウス・スカート
の構成と型紙
4)日常着の布地
5)用具・機械
6)製作の手順

3スカートの製作
1)製作の準備
2)製作の方法
実習の反省

4ブラウスの製作
1)製作の準備
2)製作の方法
実習の反省

5被服と生活
1)衣生活のくふう
2)既製服の選び方
エプロンドレスの製作

食物
わたしたちの食物
1わたしたちの食生活
1)わたしたちの生活
と食物
2)食事のしかた

2青少年向きの献立
1)青少年の栄養
2)食品の栄養的特質
3)青少年期の食品群
別摂取量のめやす
4)献立の作成

3日常食の調理
1)調理の計画と準備
2)調理実習
実習の反省

2)衣服の形を
つくってみよう
3)衣服の形を べて
調べよう
4衣服づくりの基礎
1)衣服つくりの工程
2)用具・機械

5製作の計画
1)作業着にはどのよう
な条件が必要か
2)スモックの形はどの
ようになっているか
3)型紙の選び方と補正
4)製作の準備をする

6製作
1)布を裁つ
2)本縫いをする

7衣生活のくふう

被服2
日常着の製作と
被服整理
○日常着の製作

1活動と衣服
1)活動的な日常着
の条件
2)日常着の布地

2糸の成り立ちと特徴
1)布地の糸を観察しよう
2)繊維の特徴を調べて
みよう

3製作の計画
1)スカートの形はどの
ようになっているか
2)スカートのいろ

考えてみよう
3わたしたちと家庭の仕事
1)家庭の仕事を調 みよう
2)仕事のすすめ方を
考えよう
3)簡単な食事
のための仕事
4)衣服の着用と手入れ
5)室内の整備と美化

4わたしたちと
家庭の経済
1)家庭の収入と
支出を知ろう
2)物資・サービス
をじょうずに
選択・購入しよう
3)契約とクーリング・
オフについて知ろう
4)消費者としての自覚
をもとう

5わたしたちの
家庭と地域社会
1)家族や地域の人々と
のかかわりを考えよう
2)地域の生活環境を
快適にしよう

6これからの社会の
変化と家庭生活
1)よりよい家庭を築い
ていこう

食物
1わたしたちと食物
1)わたしたちと食物の
かかわりを考えよう

2青少年の栄養
1)青少年に必要な栄養

衣類の整理
1綿・化繊織物の洗たく
1)衣類の洗たく
2)洗たくと繊維の性質
3)洗たく用剤
4)洗たく用具・機械
5)ブラウスの洗い方

2しみぬき
1)衣類のしみぬき
2)しみぬきの用具・用剤
3)しみぬきの方法

3保管
1)被服の防虫
2)保管のしかた

毛糸編物
1製作の計画
1)編物の特徴
2)毛糸の種類と選び方
3)毛糸編物の用具
4)棒針編みの基礎
5)かぎ針編みの基礎
6)ゲージのとり方

2ミトンの製作
1)ミトンのくふう
2)材料と用具
3)編み方
4)仕上げ

被服と衣生活
1日常着と衣生活
2科学技術の進歩と衣生活の合理化

4食物と生活
1)食生活のくふう
2)食生活の安全

住居
わたしたちのすまい
1わたしたちの住生活
1)すまいと環境
2)すまいのはたらき
3)すまいとすまい方

2住空間の計画
1)単位の空間
2)へやの設計
3)ダイニングキッチンの設計
4)すみよいすまい

3木製品の製作
1)ものをつくる手順
2)立体のかきあらわし方
3)製作図のかき方
4)設計
5)製作
実習の反省

4すまいと生活
1)すまいと家具
2)家具の選び方
3)すまいのくふう

技術・家庭2
昭和53年

被服
休養着の製作
1わたしたちの休養着
いろな形
3)型紙の選び方と補正
4)製作の準備

4製作
1)布を裁つ
2)仮縫いと補正をする
3)本縫いをする
4)仕上げをする
5)着装のくふう

○被服整理
1日常着のよごれと手入れ

2編み物の特徴

3編み物の洗たく
1)洗たく用剤と洗たく用具
2)洗たくのしかた
4快適な衣生活

食物1
わたしたちの健康と食物

1わたしたちと食物

2青少年期の食物
1)わたしたちの健康と栄養
2)栄養素はどのようにとればよいか
3)食事の検討をしよう

3調理実習

4わたしたちの食生活

食物2
の特徴を知ろう
2)食品と栄養素の関係を知ろう
3)食品群別摂取量のめやすを知ろう

3調理の計画
1)食品の選択と購入について考えよう・食品添加物
2)調理計画を考えよう

4日常食の調理
1)米の調理をしよう
2)汁ものの調理をしよう
3)肉・魚の調理をしよう
4)野菜の調理をしよう
5)小麦粉を使った菓子の調理をしよう
6)めん類の調理をしよう

5よい食生活とは
1)食事の内容を検討しよう
2)食生活を見直そう

6これからの食生活
1)食生活と環境を考えよう

平成3年下
被服
1被服とわたしたちの生活
1)わたしたちと被服のかかわりを考えよう

設計・製図
設計・製図の基礎
1ものの設計と
あらわし方
1)ものの考案設計
2)設計するもののあらわし方

2投影法
1)もののかきあらわし方
2)正投影法
3)その他の投影法

3製図の基礎
1)線の引き方
2)文字のかき方
3)製作図のかき方

図面と生活

家庭工作
花びんしきの製作
1考案設計
1)花びんしきの条件
2)構造
3)材料の選び方
4)加工法
5)略構想図・構想図

2製作図と製作の計画
1)製作図
2)材料と工程

3木工具
1)おもな工具のしくみ
2)その他の用具
3)安全な作業

4製作

1)休養と被服
2)休養着の種類

2パジャマの製作
1)製作の計画
2)製作の方法
実習の反省

手芸品と製作
1手芸品と生活
1)手芸品の利用
2)手芸の種類と特徴

2ししゅう
1)製作の計画
2)テーブルセンターの製作
実習の反省

3編物
1)製作の計画
2)かぎ針編みのマフラーの製作

4染色
1)製作の計画
2)しぼり染めのクッションの製作
実習の反省

被服整理
1被服整理
1)被服整理と衣生活
2)被服整理と衣服

2洗たく
1)洗たくの計画
2)綿製品・化学繊維製品の洗たく
3)毛・アクリルなど

1わたしたちと食品

2食品の選択と購入
1)生鮮食品とは
2)加工食品にはどのようなものがあるか
3)食品添加物はどのように使われるか
4)加工食品の表示を調べよう
5)食品の選び方と保存のしかた

3わたしたちの献立
1)献立の条件はなにか
2)献立はどのようにたてるとよいか

4調理実習

5食生活と消費者

住居
快適な住生活

1わたしたちの生活と住まい
2生活と住空間
1)住空間はどのようなはたらきをしているか
2)生活行為にはどれだけの空間が必要か
3)へやの使い方を考えよう
3室内の環境
1)生活に適した明るさをくふうしよう
2)へやの空気を調節しよう
3)騒音防止のくふうをしよう
4)室内を楽しく

2)衣服の形はどのようになっているか考えてみよう

2衣服づくりの基礎
1)布の成り立ちを調べよう
2)繊維の特徴を知って、布地を選ぼう
3)用具・機械の使い方を知ろう

3日常着の製作
1)製作の計画をしよう
2)型紙を選ぼう
3)製作例

4手芸品とわたしたちの生活
1)手芸品とわたしたちの生活について考えてみよう

5快適な衣生活
1)着装のくふうをしよう
2)既製服の選び方と活用のしかたを考えよう

住居
1わたしたちの生活と住まい
1)わたしたちと住まいのかかわりを考えよう

2住空間のはたらきとくふう
1)住空間のはたらきを考えよう
2)生活に必要な空間を

1)木取り
2)部品加工
3)組立
4)塗装

家庭工作と生活

技術・家庭女子用2
昭和43年

調理
家族の食物
1家族の献立
1)家族と食物
2)成人の栄養
3)成人の食品群別
摂取量のめやす
4)季節と食品
5)食物費
6)献立の作成

2調理と能率
1)調理作業の能率化
2)調理作業のしかた
3)台所とその施設
・設備
4)調理用熱源

3調理実習

食生活と家庭経済
1)家族の食生活
2)食物費と家庭経済

被服製作
休養着の製作
1わたしたちの休養着
1)休養着の選び方
と着方
2)被服の計画
の編物の洗たく
実習の反省

3保管
1)保管の計画
2)保管のしかた

4被服と生活
1計画的な衣生活
1)被服計画
2)被服材料などの
進歩と衣生活

食物
成人の食物
1成人と食生活
1)家庭と食物
2)食事のとり方

2成人向きの献立
1)成人の栄養
2)季節の食品と
貯蔵・加工食品
3)献立の作成

3日常食の調理
1)調理の計画と準備
2)調理実習

4計画的な食生活
1)生活時間と調理
の能率化
2)貯蔵・加工技術
の進歩と流通

家庭機械
家庭機械の整備
1機械のしくみ
1)家庭で使われて
いる機械
きれいにしよう

4水と熱源
1)水を大切に使う
くふうをしよう
2)給水と排水器具の
しくみを調べよう
3)熱源の安全な
使い方を考えよう

5これからの住生活

技術家庭下昭和61年

被服3
休養着の製作と
手芸品の製作
○休養着の製作
1休養と被服
1)休養着の形
2)休養着の布地

2布の性質
1)布の吸湿性を知
ろう
2)布の通気性を知
ろう
3)布の保温性を知
ろう

3製作の計画
1)パジャマの形はど
のようになっているか
2)パジャマのいろ
いろな形
3)型紙の選び方と
補正
4)製作の準備

4製作
知ろう
3)食事や団らんの空間
を計画しよう

3快適な住まい方
1)住まいの内外の施設
や設備を知ろう
2)衛生的な室内に
しよう
3)室内の空気を調節
しよう
4)室内の騒音を調べ、
防止のくふうをしよう
5)住まいの中の安全を
考えよう

4これからの住生活
1)地域社会とごみの
排出について考えよう
2)地域環境と生活排水と
のかかわりを考えよう
3)省資源・省エネル
ギーを考えた生活を
くふうしよう
4)これからの住まい
方について考えよう

保育
1幼児とわたし
1)幼児を知り、関心
をもとう

2幼児のからだと
こころの発達
1)からだと運動機能の
発達の特徴を知ろう
2)こころの発達の
しかたを知ろう

3幼児の生活
1)生活習慣はどのよう

2パジャマの製作
1)製作の計画
2)製作のしかた

3大裁ちひとえ長着（女物）の製作
1)製作の計画
2)製作のしかた

ししゅう
1製作の計画
1)ししゅうの特徴
2)デザイン
3)材料と用具
4)基礎ししゅう

2手さげ袋の製作
1)手さげ袋のくふう
2)材料
3)裁ち方
4)下絵のかき方
5)ししゅうのさし方
6)袋の縫い方

衣生活と家庭経済
1)衣生活のくふう
2)被服費と家庭経済

家庭機械
裁縫ミシンの整備
1ミシンのはたらき
1)ミシン縫い
2)動力伝達のしくみ

2ミシンの整備
1)点検
2)分解・調整

3機械要素と機械材料
1)機械要素
2)機械の成り立ち
3)ミシンのしくみ

2ミシンの整備
1)日常の点検・整備
2)点検・整備の留意事項
3)おもな部分の整備
4)機構と機械に使われる材料
実習の反省

3機械と生活
1)機械の選び方
2)生活や産業と機械

技術・家庭３
昭和５４

被服
外出着の製作
1わたくしたちの外出着
1)外出と被服
2)外出着の種類
3)外出着の着方

2ワンピースドレスの製作
1)製作の計画
2)製作の方法
実習の反省

3被服と生活
1)衣生活の現状
2)これからの衣生活

食物
幼児の食物
1幼児と食生活
1)布を裁つ
2)仮縫いと補正をする
3)本縫いをする

○手芸品の製作
1ししゅう
2編み物
1)かぎ針編み
2)棒針編み

3染色

4これからの衣生活

食物３
成人の健康と食物
1成人の食生活

2成人の栄養と献立
1)成人の栄養の特徴はなにか
2)成人の栄養所要量と食品群別摂取量のめやす
3)成人向きの献立を立てよう

3調理実習
1)調理計画を考えよう
2)調理用具・機器はどのように扱うか

4これからの食生活

保育
幼児の保育
1幼児を知ろう

2幼児のからだとに形成されるだろうか
2)遊びについて考えよう
3)おもちゃと遊びのかかわりを考えよう
4)幼児の喜ぶおもちゃをつくろう
5)幼児の食生活の特徴を知ろう
6)おやつの与え方について考えよう
7)幼児の喜ぶおやつをつくろう
8)幼児の被服の特徴を知ろう
9)幼児の喜ぶ被服をつくろう

4保育と環境
1)幼児の発達と環境のかかわりを考えよう
2)よりよい保育環境をめざして

2)機械材料

機械と生活

家庭工作
家具や家庭用品の手入れと修理
1家具の修理
1)木製家具の種類
2)木製家具のあつかいと手入れ
3)木製家具の修理

2家庭用品の修理
1)金属製家庭用品の種類
2)金属製家庭用品のあつかいと手入れ
3)金属製家庭用品の修理

3刃物の手入れ
1)刃物の種類
2)刃物のあつかいと手入れ
3)刃物のとぎ方

家具と生活

技術・家庭女子用3
昭和　４３年

調理
幼児・老人・病人の食物
1消化しやすい食物
1)幼児・老人・病人の食物
2)消化しやすい食品と調理のしかた

1)幼児と食物
2)食事のあたえ方

2幼児向きの献立
1)幼児の栄養
2)食品と調理のしかた
3)献立の作成

3幼児食の調理
1)調理の計画と準備
2)調理実習

老人の食物
1老人と食生活
1)老人と食物
2)食事のしかた

2老人向きの献立
1)老人の栄養
2)食品と調理のしかた
3)献立の作成

3老人食の調理
1)調理の計画と準備
2)調理実習

行事食
1家庭生活と行事食
1)行事と食事
2)もてなしのしかた、受け方

2行事食の献立
1)献立の特徴
2)献立の作成

3行事食の調理
1)調理の計画と準備
2)調理実習
実習の反省

こころの発達
1)からだはどのようにして発達していくか
2)運動機能はどのように発達していくか
3)こころはどのように発達していくか
4)幼児期に生活習慣が形成される

3幼児の遊び
1)遊びはこころとからだを発達させる
2)おもちゃは遊びをさそいだす
3)手づくりのおもちゃをつくろう

4幼児の食物
1)幼児期の食生活にはどのような特徴があるか
2)食事やおやつはどのように与えたらよいか
3)幼児の喜ぶおやつをつくろう

5幼児の衣服
1)幼児の体型の特徴に合っている
2)脱ぎ着・清潔などの習慣づけができる
3)幼児の生活に合っている
4)遊び着を製作しよう

6保育と環境

2幼児の食物
1)幼児期の栄養
2)幼児期の食事
3)献立の作成
4)調理実習

3老人の食物
1)老人の栄養
2)献立の作成
3)調理実習

4病人の食物
1)病人の栄養
2)献立の作成
3)調理実習

行事食・客ぜん調理
1行事食・客ぜんの献立
1)行事食・客ぜんのあり方
2)献立の作成

2調理実習
食生活の改善
1）食生活の反省
2）食生活の改善
3）将来の食生活

被服製作
外出着の製作
1わたしたち外出着
1)外出着の選び方と着方
2)ワンピースドレスの着方

2ワンピースドレスの製作
1)製作の計画

食物と生活
1食生活のくふもう
1)食物費と家庭経済
2)これからの食生活

保育
幼児の保育
1幼児の心身の発達
1)からだの発達
2)こころの発達

2幼児の生活
1)幼児の１日
2)生活習慣
3)遊びとおもちゃ
4)幼児の衣服
5)おやつ

3保育と環境
1)家庭環境
2)社会環境

家庭電気
家庭用電気機器の取扱い
1電気機器と回路計
1)家庭で使われている電気機器
2)電気回路と回路図
3)回路計

2屋内配線
1)屋内配線のしくみ
2)屋内配線図
3)屋内配線の取扱い

3電気機器の取扱い
1)電気機器のしくみ
2)点検と取扱い
3)電気と安全

2)製作のしかた

毛・絹の洗たく

1毛・絹の性質と洗たく

1)毛・絹の性質

2)洗たく用剤

3)洗い方

2毛・絹の洗い「方

1)毛のセーターの洗い方

2)絹のマフラーの洗い方

染色

1染色の基礎

1)染色法の種類と特徴

2)染料

3)布地

2のれんのろうけつ染め

1)のれんのくふう

2)材料と用具

3)染色のしかた

3ふろしきのしぼり染め

1)ふろしきのくふう

2)材料と用具

3)染色のしかた

衣生活の改善

1)衣生活の反省

2)衣生活の改善

家庭機械

家庭電器の点検と修理

1電気回路と回路計

1)電気回路

実習の反省

4電気と生活

1)電気機器の選び方

2)電気に関するきまり

3)電気の利用

2)回路計の使い方

2屋内配線
1)屋内配線のしくみと器具
2)屋内配線図
3)屋内配線の安全

3電気アイロン
1)電熱器具
2)電気アイロンのしくみ
3)回路計による点検
4)分解・修理

4けい光燈
1)白熱電燈とけい光燈
2)けい光燈のしくみ
3)けい光燈のはたらき
4)けい光燈の故障と点検

5電気洗たく機
1)家庭電器の電動機
2)誘電電動機
3)電気洗たく機
電気と生活

家庭工作
すまいのくふう
1間取りの設計・製図
1)すまい方の条件
2)へやの配置
3)すまい方のくふう
4)間取りの設計
5)間取り図のかき方

2　家具の塗りかえ

1)塗料の種類
2)家具のあつかい
と手入れ
3)塗りかえのしかた
すまいと生活

保育
幼児の保育
1幼児の成長と生活
1)幼児のからだ
2)幼児のこころ
3)幼児の生活習慣

2おもちゃと遊び場
1)遊びとおもちゃ
2)遊び場と遊び場
の設計

3おやつ
1)幼児とおやつ
2)おやつのつくり方

4幼児の被服
1)幼児の生活と被服
2)幼児服の考案

保育と生活
1)保育と家庭生活
2)保育と社会施設

表1から、中学校家庭科教科書の家庭系列の各領域の数と名称は以下のような変遷をたどりながら、現在にいたっている。

1、昭和43年版の家庭系列の領域は「調理」「家庭機械」「被服」「設計・製図」「家庭工作」「保育」の6領域があった。
2、昭和53年版は「被服製作」→「被服」、「調理」→「食物」、「設計・製図」と「家庭工作」→ 「住居」、「家庭機械」「家庭電気」「保育」の6領域であった。
3、平成3年は「被服1」「被服2」「被服3」→被服、「食物1」「食物2」「食物3」→食物、「住居」「保育」の4領域であった。
4、平成5年では「家庭生活」「食物」「被服」「住居」「保育」の5領域となった。

このように各領域名とその項目数は大幅に変化している。ここでは各領域ごとの小題材数の変化を比較することで、経時的な学習内容量の変遷を図1に示した。

家庭系列の小題材の総数は昭和43年が187であり、昭和53年では126、平成3年では101、平成5年では68のように、激減している。各領域ごとに見てみると、平成5年の食物、被服は昭和43、53年を基準に比較してみると、前者が約1/3、後者が約1/5になっている。「保育」の小題材数はあまり、変化していない。「住居」は昭和53に比べれば、約1/2に減少している。

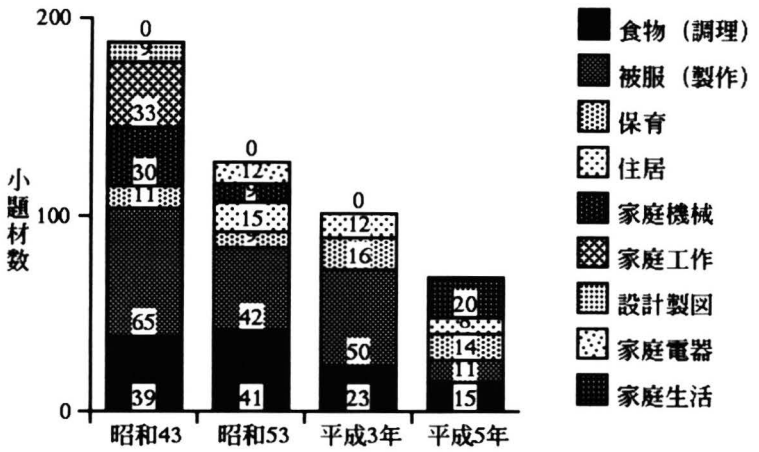

図1　中学校家庭科教科書の領域別の小題材数の変遷

昭和43の教科書は昭和33年学習指導要領告示に基づき、「被服」領域の題材数が最も多く、ついで「食物」の順で、これらが中心になっている。この年の教科書から「職業・家庭科」が「技術・家庭科」に変わり、「男子向き」「女子向き」に分けられていた。昭和33年はソ連の人工衛生スプートニックの打ち上げ成功の年であり、技術革新が叫ばれた年である。そして、家庭科は時代的要請に応え、教科書の内容に「女子向き」としながらも「家庭機械」「家庭工作」などの家庭科向き技術系領域が取り入れられた。

昭和53年の教科書は昭和44年学習指導要領告示に基づき、前回と同様に「男子向き」「女子向き」に分けられている。「女子向き」は「被服」、「調理」の領域の題材数が最も多く、これらが中心である。家庭科教科書の題材「家庭工作」の削除と「家庭機械」の題材数を減少することで、より女子向きになった。

平成3年教科書は昭和52年の学習指導要領告示に基づき「男子向き」「女子向き」の区別がなくなった。これは昭和51年（1976年）に、教育課程審議会から「ゆとりと充実のある学校生活」の影響を受け、特に「食物」の題材が大きく減少した。

平成5年教科書は平成元年の学習指導要領告示に基づいている。ここでは従来、「被服」「食物」が圧倒的に多く題材数を占めていた傾向が完全に断ち切られた。最も題材数が多い領域は新設された「家庭生活」である。この「家庭生活」が設けられた理由は核家族化の進行、子ども数の減少、女性の社会進出、父親の存在感の希薄化、家事労働の激減による家庭生活の室の変化、それに伴う家庭教育力の低下と知育偏重の風潮、家庭生活の意義の軽視、サービス産業の発展による家庭機能の外部化の進行など、家族の機能の変化に対応するためである。そして、また、この開設によって小・中・高校一貫して、「家庭生活」領域が学習できるようにもなり、家庭科教育における主な柱がこの領域であることが示された。従来から考えれば、衣食住に帰属されるような領域がこの「家庭生活」領域に取り入れられ、これらはお互いに有機的に「家庭生活」という中心的命題に向かって構

築されている。今回の改訂による題材の再構成から家庭科教育の目標は社会の構成単位である家庭生活の充実にあることを示したものと考えられる。そしてこのことは1947年（昭和22年）の学習指導要領の内容を想起させる。

3、中学校家庭科教科書における題材の環境の認識

前章までに、中学校の学習指導要領と教科書の題材の変遷についてみてきた。そこで、ここでは衣食住領域の題材の内容に立ち入って、環境をどのような認識でとらえてきたか、変遷を以下にのべる。

(1) 住領域の小題材「住生活」における環境について

表3に昭和43年から平成5年までの中学校家庭科住領域における小題材「住生活」内容の変遷を示した。表3で小題材を選んだ理由を以下に述べると、平成5年の題材「これからの住生活」の中に小題材として「地域環境と生活排水とのかかわりを考えよう」と環境に関することが記述されている。そこで、この題材で比較した。平成3年にも同じ「これからの住生活」がある。ところが昭和53年、昭和43年にはこの題材名はなく、同様の内容が前者では小題材「すまいと環境」、後者では「すまいと生活」にあったのでこれらと比較した。

表3　中学校家庭科住領域における小題材「住生活」内容の変遷

＜昭和43年＞
題材「すまいと生活」
内容「わたしたちが安全で衛生的な生活ができるように、建築法規がつくられており、用途地域の指定、敷地と建物の広さや道路と建物の高さの制限、防火構造の指定などがある。わたしたちはこれまでに学習したことをもとにして、新しい住宅や家具について関心をたかめ、すまい方をくふうし生活を楽しく豊かなものにしていくようにしよう」
＜昭和53年＞
題材「わたしたちの住生活」
小題材「すまいと環境」
見だし「すまいと地域社会」
内容「商店や工場、幹線道路などがむやみに住宅地にいりまじってくると、静かな生活がみだされ、健康にも害があったりする。快適な生活の環境をつくるためには、こうした、いろいろな施設をうまく組み合わせて配置することが必要である。」
＜平成3年＞
題材「これからの住生活」
小題材「エネルギーや水を有効に使おう」
内容「わたしたちの家庭生活に不可欠なエネルギーや水はふつう、電気・ガス・水道などのように、地域ごとに供給される場合が多くなってきている。地球上のエネルギーは限られたものであるし、水資源も、降水量によって左右されるものであるから、じょうずにむだなく使うようにしよう。また、家庭の生活排水は河川や湖の水質汚濁の原因の一つとなっているので、環境保全にも気をつけよう。」
＜平成5年＞

題材「これからの住生活」
小題材「地域環境と生活排水とのかかわりを考えよう」
内容「水の使用量は今後も増加がみこまれているが、水資源の確保はむずかしい。また、特に、家庭からの生活排水が、河川の水質汚染に大きく影響を与えているといわれている。」
見だし「生活排水がどれだけ環境を汚染しているか、考えてみよう」
内容「わたしたちが台所や浴室、トイレなどからだす生活排水は海や河川を汚す原因ともなる。特に食物のくずや洗剤などを含んだ排水が川や湖、海に流れ込むと、赤潮を発生させたり水道水をくさくしたりする問題が起きる。」
見だし「生活排水をだすときのくふうをしよう」
内容「わたしたちが生活排水をだすときに、なるべく、水を汚さないですむような方法をくふうすれば、環境汚染を少なくすることができる。」
小題材「省資源・省エネルギーを考えた生活をくふうしよう」
内容「わたしたちが生活していくためには、石油や電気、ガスなどのエネルギーを欠かすことができない。これらのエネルギーを作りだし、家庭に供給するために多くの人の努力や経費がはらわれている。また、これらエネルギー資源には限りがあるので無駄なく使うことが大切である。最近では新しいエネルギーとして太陽熱が家庭の給湯や暖房などにも利用されてきている。わたしたちは無駄のない生活を工夫することによって、環境保全につとめていこう。」

表３から、昭和43年では衛生的な生活ができるように建設法規があることが書かれ、新しい住宅や家具についての関心を高めることが記述され、環境に関する記述は全くない。昭和53年では商店、工場、道路などが住宅に及ぼす影響が書かれ、各家庭の快適な生活環境を保つために、まわりの地域環境の整備が必要であることが記述されている。このような記述は各家庭と環境が遊離し、視点は各家庭が中心である。また、学習者にとってみれば、地域環境整備とはどうすることもできないことであり、具体的に快適な生活環境に向けて何も行動できないことでもある。

平成3年の題材「これからの住生活」ではエネルギーが有限であり、無駄のない使い方が書かれている。そして家庭排水が河川や湖の水質汚濁の原因の一つとなっていることが書かれている。これらの記述はもはや各家庭と環境が関連していることを学習者に認識させるとともに家庭生活の一体何が環境を汚染しているかを具体的に認識させ、環境保全の注意を喚起している。

平成5年では地域環境と生活排水の関わりを考え、その排水の中身まで踏み込み、水質汚濁が家庭生活に跳ね返ってくることが記述されている。この記述は平成3年に比べ、詳細な内容であり、学習者が何を努力すれば、生活排水をきれいにすることができるかが示されており、家庭生活と環境を密接に関連づけて理解できる。

また、小題材「省資源・省エネルギーを考えた生活をくふうしよう」はこの年に初めて出てきた内容である。水やごみを具体的に処理することは目の前にある問題を解決する対症療法である。このことだけを学習者に認識させても環境問題は解決しない。少ない資源を有効に活用することが水問題やごみ問題を積極的に解決していく手段であり、家庭科教育における環境保全の重要な姿勢である。

(2) 被服領域の小題材「衣生活」における環境について

次に表4に昭和43年から平成5年までの中学校家庭科被服領域における小題材「衣生活」内容の変遷を示した。この題材を選んだ理由は平成5年では「快適な衣生活」の中に環境に関わるものが記述されていた。この題材名は平成3年でもあった。ところが、昭和53年の教科書には同じ題材名がないので平成3年にある「これからの衣生活」で比較した。また、昭和43年にもこの題材名がないので、「衣生活の改善」と比較した。

表4　中学校家庭科教科書の被服領域における題材「衣生活」の内容の変遷

＜昭和43年＞

題材「衣生活の改善」

小題材「衣生活の反省」

内容「わが国では、四季の変化がいちじるしく、また、和洋両方の生活様式が取り入れられているので、被服の種類や数が多くなりやすい。なお、長い間にできあがった習慣にとらわれて、たとえば、冠婚葬祭に用いる衣服に、むだな消費をしたり、被服の制作や整理に多くの時間と労力を費やしたりしやすい。このように、わが国の衣生活はさまざまで、服装が美しいという一面もあるが、わたしたちは、家庭経済や生活の合理化・能率化の立場から、衣生活の習慣や現状を反省して、衣生活を改善していくことがたいせつである。」

見だし「被服整理の合理化」

内容「被服整理を合理化するには、まず、とりあつかい方の容易な被服の材料や型を選ぶことである。最近はじょうぶで、洗たくしやすい化繊や、綿と化繊の混紡・交織のものが生産されている。また、アイロン不要の布地や、パーマネントプレス加工、防虫・防しわ加工などのほどこされた製品もある。つぎは、電気洗たく機・脱水機・乾燥機・電気アイロンなどの便利な機械・器具や性能のすぐれた洗たく用剤など利用して労力の節減をはかることである。」

＜昭和53年＞

題材「被服と生活」

小題材「これからの衣生活」

見だし「現在の衣生活の問題点」

内容「不足しがちな衣料資源を有効に利用するように、個人または社会全体で、物資の節約と再利用について、真剣に取り組んでいく。」

内容「加工処理剤による衣服障害が発生したり、洗剤による環境汚染が問題になっている。」

見だし「衣生活の変化と消費者」

内容「洗剤による環境汚染を発生させないために、洗剤に関する知識を持ちその利用方法を正しく理解して使用できるようにする。」

＜平成3年＞

題材「これからの衣生活」S61下P149

内容「わたしたちの今後の生活を考えると、消費生活の多様化、個性化が進み、高級志向や、人間らしさを求めたものの創造が予測される。また、所有したものの再利用や、貸

し衣装などの利用、高齢化に対応する商品の開発なども活発になることが考えられる。しかし、それらのもとになる被服材料については、天然繊維も化学繊維も、その供給量に限りがあることを考える必要がある。

●人間らしさを求めて、手づくりなどの傾向が予測されるが、それはなぜだろうか

●供給量に限りがある天然繊維や化学繊維に、どのように対応していけばよいだろうか・・・」

題材「快適な衣生活」

見だし「安全な衣生活を営もう」

内容「わたしたちは便利さや外観だけにとらわれずに、からだへの安全性や、環境への影響を考えて、衣生活を快適に営もう。」

「電気洗濯機の普及につれ、合成洗剤の使用が急増したが合成洗剤が皮膚障害を起こす原因となることもあるので、洗剤を選ぶときは品質表示を確かめよう。」

「家庭排水による水質汚濁への影響を考えて洗剤を正しく使おう。」

「衣服を選ぶときは、繊維の種類や性質によるからだへの影響を考えよう。」

＜平成5年被服領域＞

題材 「快適な衣生活」

小題材「既製服の選び方と被服の活用のしかたを考えよう」

見だし「被服の活用のしかたを考えよう」

内容「繊維資源には限りがあるので、着られなくなった衣服はリフォームしたり、人にゆずるなどして、最後まで有効に活用するようにこころがけよう。」

昭和43年の教科書は昭和33年に告示された学習指導要領に従って編纂されている。題材「衣生活の改善」の中の「衣生活の反省」の記述内容は被服の制作や整理に多くの時間と労力が費やされているので、生活の合理化・能率化の立場から衣生活を改善していく方向を述べている。そして、被服整理の合理化として、繊維の素材として洗たくしやすい化繊などがあることをあげ、またアイロン不要の布地や防虫・防しわ加工のほどこされた製品を紹介し、電気洗たく機・脱水機・乾燥機などの便利な機械を使うことによって労力の節減をはかることなどの記述であり、節約の内容はない。ちょうど、この間は高度経済成長期にあたり、便利な生活を求めるため電化製品などの大量生産、大量消費が行われた時期であり、教科書にこの背景にあったものと考えられる。

昭和53年教科書は昭和44年に告示された学習指導要領に沿って編纂されている。小題材「これからの衣生活」は加工処理剤による皮膚障害と洗剤による環境汚染が問題になっていることの現状と衣料資源の有効利用と物資の節約・再利用について取り組んでいく姿勢が記述されている。この大きな変化は、昭和42年に公害対策基本法の制定、昭和48年のオイルショックが大きく教科書の記述内容に影響を及ぼしているものと思われる。

平成3年の教科書は昭和52年に告示された学習指導要領に沿って編纂されている。前の年度と同じ題材である「これからの衣生活」は、人間らしさを求めて手作りなどの創造を予測している。

題材「快適な衣生活」の内容「便利さや外観だけにとらわれずに、からだへの安全性や、環境への影響を考えて、衣生活を快適に営もう。」のように、生活の合理化推進から価値基準から安全性や環境を配慮した基準に転換している。さらに、「・・・合成洗剤の

使用が急増したが合成洗剤が皮膚障害を起こす原因となることもあるので、・・・。」のように冷水によくとけ、洗いあがりがよく、黄ばみがない合成洗剤は日常生活に大きなメリットになるが、皮膚障害をもたらすデメッリトもあることを述べ、さらに「・・・水質汚濁への影響を考えて洗剤を正しく使おう。」のように洗剤が水質汚濁の要因になることを述べ、「衣服を選ぶときは、繊維の種類や性質によるからだへの影響を考えよう。」のように被服素材によっては体への影響を及ぼすことなどが述べられている。これらのことは科学進歩がもたらした利便性と裏腹に障害や環境汚染が生じていることの現状を示し、昭和43年に比較して180度転換した内容となっている。この転換は高度経済成長がもたらした心のゆとりの喪失や環境汚染の反省からだと考えられる。

平成5年度の教科書は平成元年年に告示された学習指導要領に沿って編纂されている。ここでは「快適な衣生活」題材のみのタイトルである。内容は前の教科書よりも積極的に再利用を推進する記述になっている。つまり、具体的に着られなくなった衣服についてリフォームしたり、ゆずったりして最後まで有効に利用することが記述されている。衣生活に限らず、地球上ではごみの増大による環境汚染、それに伴った資源の枯渇が危惧されており、その解決には製品をごみとして処理されるものから再利用できる価値のあるものとして見つめ直す発想の転換が家庭科教育の中で重要であることを示している。

以上のように衣生活では昭和43年の高度経済成長によるプラスのベクトルは環境汚染、資源枯渇というマイナスのベクトルを伴ってきた。そして、マイナスベクトルの影響は現在までなお続いている。人類はマイナスを補いながら進展しなければならない。そのためには低生産性の継続が必要であり、教科書から省資源や物質の再利用が優先して行われるべきであることが読みとれる。

(3) 食物領域の小題材「食生活」における環境について

表5に昭和43年から平成5年までの中学校家庭科食物領域における小題材「食生活」内容の変遷を示した。表5で選んだ題材の理由は平成5年の題材「これからの食生活」に環境に関することが記述されているからである。これと同じ題材は平成3年、昭和53年に続く。昭和43年にはこの題材はないが、これからの食生活は「将来の食生活」と同様の意味であるのでこれらの内容を比較した。

表5　中学校家庭科教科書の食物領域における題材「食生活」の内容の変遷

＜昭和43年＞
題材「食生活の改善」
小題材「将来の食生活」
内容「わが国の経済や文化の発展はめざましく、国民の生活もしだいに向上し、生活様式もかわってきている。・・・・」
＜昭和53年＞
題材「食物と生活」
小題材「これからの食生活」
見だし「わが国の食料事情」
内容「わが国は技術革新によって、急速に工業国となったため、食糧の生産が減少し、53図のように、とくに農産物の自給率が低くなっている。しかし、1972年の世界的食糧

危機は国民に食糧難についての不安を与え、国民栄養源の最低量は国内の食糧自給体制による確保が必要なことを知らされた。わたしたちも日本の食糧に対して、関心をもつようにつとめよう。」

＜平成3年＞

題材「これからの食生活」

小題材「食料資源を大切にしよう」

内容「食料資源には限りがあり、世界的に見て、地域によるかたよりが大きい。

・・・・・・・・・また、食品の市場での価格の安定・維持をはかるために、生産・流通の過程で大量に廃棄されることもある。そのほかに、食べ残しや家庭での食料品の購入のしすぎなどによる食品のむだも少なくない。わたしたちは、毎日の食生活を計画的に営み、大切な食料資源をむだなく使うようくふうしよう。」

＜平成5年食物領域＞

題材「これからの食生活」

小題材「食生活と環境を考えよう」

見だし「食物費の使い方を考えよう」

見だし「食料資源を大切にしよう」

内容「食料資源には限りがあり、世界的に見て、地域によるかたよりが大きい。わが国の場合、食料事情は良好だが、多くの食品を外国からの輸入に依存しているのが実状である。また、食品の市場での価格の安定・維持をはかるために、生産・流通の過程で食品が大量に廃棄されることもある。そのほかに、食べ残しや家庭での食料品の購入のしすぎなどによるむだも少なくなく、ものを大切にする気持ちが失われたり、ごみ処理や食品の安全性についての問題が出てきたりしている。食料資源を確保し、食品のむだをなくしていくためには、省エネルギーや環境問題にも目を向けて、地球全体の規模で考えることが必要である。」

昭和43年では経済や文化の発展により、国民の生活向上を述べ、食糧資源の大切さ述べた箇所はない。おそらく、このことは高度経済成長による影響であり、大量生産、大量消費の時期であることに起因しているものと思われる。

昭和53年ではこの間のオイルショックにより、物価が高騰し、ほとんどの食糧資源を輸入にたよっているわが国の現状に不安を述べるとともに、日本の食糧について関心を喚起している。

平成3年ではおおまかに昭和53年の流れと変わらないが、食品資源に限りがあるにもかかわらず、価格の安定・維持のため廃棄が行われている実態を述べ、毎日の食生活に無駄のないように注意している。しかし、食資源の確保の具体的な指針が記述されておらず、このままでは学習者はどうしていいかわからない。

平成5年では平成3年と記述内容がほとんど同じである。しかし、ここでは家庭内に目を向け食べ残しや無駄な購入しすぎる現状があることを新たに述べている。さらに、このような無駄をなくす考え方として省エネルギーや環境問題に目をむけ、地球規模で消費と環境を考えることを述べている。確かに食品を製造するには多くのエネルギーが消費される。消費者が食糧を有効に活用しないで廃棄してしまえば、大きなエネルギー損失につながり、廃棄によって環境汚染が発生する。したがって、家庭生活の中の食品を省エネルギ

ーや環境問題と結びつきで考えさせるは家庭科の食生活が大きく環境に関わっていることを把握させるために重要であると考えられる。

まとめ

1947年（昭和22年）の学習指導要領において、家庭科教育の目標は家庭生活や家族関係に重点をおき、家庭建設に責任をとることができるようにすることであった。「中学校においては、・・・男生徒がこれを選ぶかもしれない」のように男生徒が家庭科を学習する機会があった。民主的な家庭建設は男女が一緒に家庭を学習することが重要である。社会の構成単位は家族であることから、健全な家庭建設を重要視する教育目標はひいては健全な社会建設に取り組む姿勢を育むことにもなり、家庭科の今日的課題に通じるものであったと思える。

その後、中学校家庭科は男女別学の学習形態となり、女子のみが学習する教科となった。高度経済成長を目指した時期において中学校家庭科教科書の領域は生活技術や技能の習得に偏り、内容は日常生活の合理化を積極的に促す方向にあった。これらのことはゆとりある家庭生活の視点が軽視され、健全な家庭建設を失わせ、社会や環境を荒廃させる一要因となったと思われる。

低成長時代に入り、情報化、国際化、高齢化、生活の多様化、女性の社会進出などが進み、家庭荒廃や環境問題が深刻化し、生徒が理解し体得しておかなければならない今日的課題は増大している。家庭を取り巻く社会の急激な変化に主体的に対応する能力を男女の区別なく育てることが今ほど求められている時期はないであろう。

平成元年度の中学校家庭科は男女が共に学ぶことになり、「家庭生活」という新領域が加わった。従来の衣食住領域の題材のいくつかは「家庭生活」の中に位置づけらたことから、この領域が家庭科教育において重要であることが示唆された。今後の家庭科教育は「家庭生活」の充実と向上を求めるのにとどまらず、地域社会や地球環境の保全に基づいた新しい生活観を培い、社会的視野に立って環境とのバランスを配慮しつつ、家庭生活をどうとらえ直すかが問われていくものと考えられる。

参考文献

1）村田康彦ほか　「共学家庭科の理論」　pp147-161　光生館　1993
2）全国職業教育協会編　「技術・家庭」　女子用1　開隆堂（昭和43年）
3）全国職業教育協会編　「技術・家庭」　女子用2　開隆堂（昭和43年）
4）全国職業教育協会編　「技術・家庭」　女子用3　開隆堂（昭和43年）
5）全国職業教育協会編　「技術・家庭」　女子向き1　開隆堂（昭和53年）
6）全国職業教育協会編　「技術・家庭」　女子向き2　開隆堂（昭和53年）
7）全国職業教育協会編　「技術・家庭」　女子向き3　開隆堂（昭和53年）
8）鈴木寿雄　ほか　「技術・家庭」　上巻　開隆堂　（平成3年）
9）鈴木寿雄　ほか　「技術・家庭」　下巻　開隆堂　（平成3年）
10）鈴木寿雄　ほか　「技術・家庭」　上巻　開隆堂　（平成5年）
11）鈴木寿雄　ほか　「技術・家庭」　下巻　開隆堂　（平成5年）